



思えば、住居科の卒業生も、昭和26年の第1回生から数えて今年で34回。既に多数の住居科二世も誕生して、人間ならまさに働き盛りの壮年期を迎えたことになります。その活動の分野や場のひろがりは、多様多彩なものがあります。そして、年代を異にし、身を置く場や地域は違っても、同じ大学の同じ科に学んだ者同士の間には、いわく言いがたい親近感や共感が生まれるものようです。それを意識するか、しないかは別として、共通の基盤で結ばれているのは、否応のない事実とすれば、その間に親睦や情報の交換が成立するわけです。

あとから続々と巣立ってくる人たちに、望まれれば先輩の経験や情報を伝え、また一期一会に戻っている優れた資質を、社会の共有財産として役立てるなど、この会には同世代を横につなぐクラス会では果たせない、縦の拡がり、奥行きの深さが期待できましょう。

この会は、よくあるような、普通の人とは無縁の一部の物好きだけがやって行く種類の会とは違います。いろいろ違う事情をお持ちの、皆さんひとりひとりのお役に立つような会に、みんなで作り育てて行くものなのです。国際婦人年の最終年(註:1985年)にこの会が誕生するのも、意味深いものがあると思います。

[1985(昭和60)年10月・会報第1号より転載]

●奨励賞

分野を問わず有意義な活動をしている会員を対象に、さらなる活動を奨励する賞として1993年に設立されました。

- 第1回「卒業生白書」出版作業部会
- 第2回「阪神大震災後の市民と建築家の橋渡し」毛利寿子氏(9)
- 第3回「公園ゼロの町内での公園づくり」関口裕子氏(10)
- 「春日井市石尾台・お互いさまネットワークの活動」内藤恵子氏(23)
- 第4回「介護」田伏純子氏(23)
- 第5回「子どもたちが参加した住民館づくり」飯野桂子氏(36)
- 第6回「該当者なし」
- 第7回「旧同潤会大塚女子アパートの保存・再生に関する一連の活動」小谷部育子氏(16)
- 第8回「長崎斜面研究会の活動」平野啓子氏(21)

●2007年度より、「奨励賞」(各年度)と「地域の会 助成」(毎年度)を統合し、毎年開催の「住居の会奨励賞」となりました。

- 第9回「防災・減災教育活動」活動・研究者 伊村則子氏(37)、院12
「ききょう保育園 あじさい村」設計・監理 井上恵子氏(39)
- 第10回「らいてうの家」設計プロジェクトー協同で建てた「らいてうの家」 服部弥重子氏(19)
「医療法人幸善会前田病院 設計・監理」 谷口麻里子氏(47)、院20
- 第11回「読売ランド前駅周辺まちづくりプロジェクト」の活動 佐藤由紀子氏(39)

●地域の会 助成

1998年より、地域に結びついた活動をされている会員の皆様の活動費の一部を助成してきました。

- 「旧モーガン邸保存活用運動」桑山直子氏(23)
- 「建築を楽しむ塾・建楽塾」白石和子氏(16)
- 「こどものためのオープンハウス」伊藤牧子氏(26)
- 「向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会」葉袋奈美子氏(42)
- 「中瀬ビオトープ俱楽部」の活動 山内洋氏(21)

●林雅子賞

優れた女性建築家の育成と住居学科の発展のために2002年に創設されました。毎年、その年度の卒業制作または修士制作において、応募された作品の中から最も優秀と認められた作品の制作者1名に授与されます。

- 第1回「ヤマユリソウ:改新と持続」森山ちはる氏(53)
- 第2回「現代四合院」藤井洋子氏(54)
- 第3回「ウズマククワカンニサソフレ」宮原真美子氏(55)
- 第4回「ROOMS」武田睦子氏(56)
- 第5回「Dream・絵本と子ども一三鷹市における絵本館の提案」 加藤真弓氏(57)
- 第6回「CROSS—地域コミュニティ形成のための施設の提案」 高橋絵美子氏(58)
- 第7回「レクリエム—死の紡ぎだす風景」徳江可那子氏(59)
- 第8回「ハジマリの塔—京島プロジェクト」石倉彩子氏(60)